

■世界、国内の変化への対応

飯田を取り巻く 30 年先の状況 (2016.12 策定時点)

世界人口は、アジア地域を中心に継続的に増加し、2050 年には約 90 億人に達することが見込まれ、食糧・水・エネルギー問題が慢性化すると予想されます。また、人口構成における生産年齢人口の減少とともに、人材獲得競争の激化が進む見込みです。

また、国内では、人口減少、少子化、高齢化が進む中で、コミュニティや都市機能、財政・社会保障など社会経済システムを持続するための対策が求められます。一方で、リニア中央新幹線が形成する 6,000 万人の経済圏域 (スーパーメガリージョン) がもたらす大規模な対流や、急激に進化してきた情報通信の技術などが、社会に大きな変化を与えていると言われています。

世代の価値観

リニア中央新幹線が開通する将来、現在の若い世代は、働き盛りで、子育てをする年齢に達し、その後の社会の中心的役割を担うことになります。この世代の新しい価値観は、日本人の暮らし方、生き方にも大きく影響を及ぼすと考えられています。

↑ アフター・ウィズコロナ 新しい生活様式 など検証し反映することが必要 (2020 年以降)

■ 飯田のまちづくりの姿勢 ~飯田が持つ可能性を信じて、多様な主体が行動する姿勢~

私たち飯田市民は、時代の変化に対応して独自の文化を紡ぎ、多様で寛容な質の高いコミュニティを形成してきました。昭和 22 年(1947 年)の飯田大火後の復興の際には、地元中学生の自発的な取組により、りんご並木がつくられ、その精神は人形劇のまちづくりなど様々なムトス活動に広がっています。産業面では、元結に改良を加え、光沢のある丈夫な製品を作り出す水引産業に始まり、食品産業の発展、近年では市田柿の高付加価値化や航空宇宙プロジェクトなど地域経済活性化プログラム※1 による多様な産業政策を展開しています。また子育て支援や健康づくりなど協働によるくらしやすい地域づくりが進み、さらに地域環境権※2 による分権型エネルギー自治※3 の取組は、先進事例として全国的な注目を集めています。

■ 変化の激しい時代を生き抜く力の源泉 「学び」

変化のスピードが加速することから、変化に対応する行動が求められます。

飯田のまちづくりの姿勢は、学ぶことにあります。物事の本質を見極め、新風を取り入れて創意工夫による経験を積み重ね、応用する力を身につけます。私たちは、変化の激しい環境にあるからこそ、飯田で培われた学びの土壌で一人ひとりの「個」の力を蓄えることによって、地域全体で次代を生き抜いていきます。

■ グローバル時代に魅力を放つ価値の創造 「交流」

国際化、世代の価値観の変化が進む中では、個性を磨き、存在感を示すことが必要となります。

飯田のまちづくりの姿勢は、交流することにあります。広く交流しながら、内と外の地域を結び、相互を理解し、融合することにより、新たな価値をつくり出します。私たちは、大交流時代にあるからこそ、積極的な交流から飯田の強みや新たな価値を生み出し、世界に届く存在感を示します。

■ 新たな課題を解決し時代を切り拓く「共感」

本格的な人口減少の時代となることから、これまで地域が経験しなかったような人材不足などに始まり様々な課題を解決する必要があります。

飯田のまちづくりの姿勢は、共感することにあります。自分たちの地域は自分たちでつくる自主自立の精神や、当事者意識を持って協力し合う「結い」の心で考え行動します。私たちは、右肩下りの時代にあるからこそ、自助・共助・公助を重層的に組み合わせ、地域の価値観を認め、支え合い、共感しながら、「ムトス」を合言葉に実りある未来づくりに挑戦します

※1 人口減少、少子化、高齢化の中で、必要とされる、地域で見守る子育てや介護、助け合いによる防災力の向上など、公共性の高いサービスを皆が協力し合って実現していくこと。

リニアがもたらす大交流時代に「くらし豊かなまち」をデザインする ~合言葉はムトス 誰もが主役 飯田未来舞台~

私らしくくらしのスタイルを楽しむまち

- 都会との時間距離が大幅に短縮され、豊かな自然環境や文化の中で、都会での仕事と飯田での農あるくらしを両立し、質の高い地域コミュニティの中で人と人のつながりを感じながら、家庭や地域も大事にしていける「私らしくくらしのスタイル」をつくって楽しんでいます。
- 日常生活文化圏を共有している南信州地域や三遠南信地域などの広域的な地域連携の取組が進み、くらしやすさを実感しています。
- 国内外からの移住者が増え、その一人ひとりが人権に配慮し、社会の一員として積極的に地域活動に参加し、交流を深めて担い手になっています。
- 中心拠点、広域交通拠点、観光拠点がつながり、住む人をやさしく包み、国内外から来る人をあたたかく迎え入れています。

人と人がつながり、安全安心に暮らせるまち

- 災害に強い社会基盤の確保と、最悪のシナリオの予測と備えにより、市民の生命、財産が守られています。
- 情報通信基盤の安定的な整備と飯田の強みである人と人のつながりにより地域の中で一人ではないと実感し、穏やかに安心して暮らしています。
- これまでの経験や全国各地で発生する災害から、あらゆる対応策などを学び、知識・行動ノウハウを持った市民が育成されています。

健やかにいきいきと暮らせるまち

- 多世代の交流のつながりや一人ひとりの知恵や力をいかせる緩やかで程よいコミュニティにより、誰もが障がいのあるなしにかかわらず、社会と関わり地域に貢献しながら、支えられ、見守られ、生涯を通じて自分らしい健康な生活を送っています。
- 市民、民間事業者、行政のつながりによる「医療・介護、福祉の連携体制」と「地域を支える医療環境」が整えられ、高齢になっても安心してくらしを送っています。

学びあいにより生きる力と文化を育むまち

- 一人ひとりの好奇心に対応する様々な学びの場に多くの老若男女が集い、自分や地域の将来を考える活動に関わっています。その姿に学び、子どもたちもまちづくりに積極的に提案・行動し、社会の一員として地域に貢献しています。
- 飯田の学びの伝統をいかした人づくりにより、地域に誇りを持った人材が飯田や世界を舞台に活躍しています。
- 人形劇や伝統芸能に様々な立場で関わる人の想いが地域につながりを生み、文化活動を大切にしている心が世代を超え受け継がれています。
- 一人ひとりが楽しくスポーツに親しみ、人や地域が活力にあふれています。



人と自然が共生する環境のまち

- 人と自然が共生する環境のまち一人ひとりが身近にある豊かで貴重な自然の恵みを実感し、市民自らが考え、行動する環境活動によって、地球にやさしくくらしを実践しています。
- 気候変動の影響による自然災害、生態系全般への影響、健康への被害、農作物への影響を緩和し、適応していく取組が進んでいます。

持続的で力強く自立するまち

- 多様な産業の発展とともに新産業の創出や地域産業の高付加価値化への挑戦を応援し、世界に発信できる地域ブランドがつくられています。
- 特色ある地域産業の発展により、新たな雇用が創出され、若者の地元回帰や定着化が進み、地域産業の担い手として飯田を舞台に活躍しています。
- 「人的ネットワーク」をベースにした「知の拠点」で、様々な研究開発が行われ、国内外に新たな価値を発信しています。

地域の誇りと愛着で 20 地区の個性が輝くまち

- 地域固有の自然や文化が持つ価値をみんなが認め合い、それらが大切に保存継承され、地域づくり、人づくりにもいかされています。
- 地域を思う気持ちを大切に、自分の住む地域に誇りと愛着を持ち続けることで、地域の価値が再発見され、個性となっています。
- その一つひとつの個性を互いに高め合いながら、飯田の魅力に磨きをかけています。

飯田市人口ビジョンは、現状の人口動向の分析を踏まえて、私たちが将来どのようなくらしをしたいかを議論し、30 年先を見据えた 12 年後の理想の地域像を描き、30 年後と 12 年後の人口規模を定住人口と交流人口 (観光などあらゆる理由で飯田を訪れた人を加えた休日に飯田市滞在する人数) の 2 つの側面から人口展望を示しています。

【人口展望】 定住人口 (2028 年) 96,000 人 (2045 年) 91,000 人 交流人口 (2028 年) 156,000 人 (2045 年) 182,000 人

※国立社会保障人口問題研究所 (社人研) 推計によると飯田市の総人口は 2028 年 91,000 人、2045 年は 75,000 人と推計されている。

基本的方向は、「目指すまちの姿」の実現に向けて、4 年間で重点的に取り組むテーマです。前期 4 年間 (2017~2020 年度) に関しては、市民、地域、事業者の皆さんと行政で検討し、次の 12 の基本目標を掲げ、基本目標に基づいて「戦略計画」を立案し、毎年見直ししながら事業に取り組んできました。

【前期 4 年間 (2017~2020 年度) の 12 の基本目標】

※R2 年度見直し

- ①若者が帰ってこられる産業をつくる
- ②飯田市への人の流れをつくる
- ③地育力が支える学び合いで、生きる力をもち、心豊かな人材を育む
- ④自然と歴史を守りいかに伝え、新たな文化をつくりだす
- ⑤若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ⑥「市民総健康」と「生涯現役」をめざす
- ⑦共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる
- ⑧新時代に向けたこれからの地域経営の仕組みをつくる
- ⑨個性を尊重し、多様な価値観を認め合いながら、交流する
- ⑩豊かな自然と調和し、低炭素なくらしをおくる
- ⑪災害に備え、社会基盤を強化し、防災意識を高める
- ⑫リニア時代を支える都市基盤を整備する

いいだ未来デザイン 2028 中期計画 (要旨) Vol. 2

■ 前期計画の評価 (成果と課題)

成果 (ハード・ソフト事業抜粋)

- ハード事業はエス・バード開所 (地方版総合戦略)、リニア駅周辺の基本設計、三遠南信道天龍峡大橋 (そらさんぼ天龍峡) 完成、小中学校・美術博物館等の ICT 環境整備、防災基盤整備、妙琴浄水場第一期更新整備事業、地域外来・検査センター開設、等が実施済み
- ソフト事業はエス・バード活用、つなぐ事業、移住定住相談ワンストップ、地域人教育、学輪 IIDA (高大連携)、全市型競技別スポーツスクール、いいだ人形劇世界フェス (AVIAMA)、子ども家庭応援センター、飯田版やまほいく、フレイル予防、地域福祉課題検討会、農村起業家育成スクール、多文化共生推進コーディネーター設置、地域環境権条例認定事業、等を実施。

課題 (議会による行政評価からの評価及び提言書から抜粋)

- ブランディング・プロモーションの強化、地方(移住、就職)ニーズのマッチング強化、不登校対策、ICT 対応教員のスキルアップ、自然や文化の魅力の市民への情報発信 (認知不足)、読書推進、伝統文化の伝承、分娩機能の強化、ライフデザイン支援の充実、特定健診受診率向上、介護人材確保の強化、地域福祉コーディネーターの活動展開、地域福祉課題の解決、地域自治活動の役員負担軽減、災害時の外国人支援の強化、市民の環境意識の向上 (情報提供)、災害時の情報伝達手段の向上、災害拠点(消防詰所含め)のレッドゾーン対応、リニア駅に関する情報提供と開示、新型コロナ感染症対策

■ 計画策定の進め方、考え方

- オリンピック・パラリンピック開催に日本中が期待を膨らめた 2020 年は、新型コロナウイルスの世界的拡大に伴う影響で大きな社会変動のうねりの年に様変わりしてしまいました。令和 2 年 4 月 7 日に国の緊急事態宣言が発出され、飯田市でも感染拡大を予防するために 3 密 (密閉、密接、密集) を予防する観点から、人形劇フェスタをはじめとした様々なイベント(交流)が中止となり、小中学校は臨時休校を余儀なくされました。また、飲食店から始まり観光業や製造業など、私たち飯田市民の生計を支える様々な仕事に大きな影響を与え、日本中の経済は未だ復興の兆しを見いだせない状況です。
- 2020 年は中期計画策定の年度ですが、コロナ禍で前期計画最終年度の戦略計画の実行に大きく影響しました。時宜に即した見直しが必要となり、緊急事態宣言や経済対策など政府の動向を注視し、何より市民の生活の安心・安全を取り戻すための対策 (緊急対策) を最優先としながら、中期計画の策定作業を進めました。
- コロナ禍の社会で起きていること整理し、これからの変化を予測し、中期 4 年間の方向性を検討するために、今年 10 年目となる大学ネットワーク「学輪 IIDA」による「いいだの未来デザインを考えるシンポジウム (全 3 回)」を市民会議「いいだ未来デザイン会議」と並行的に開催し、未来デザイン策定時の飯田らしさ、飯田の強みを再検証し、コロナ時代を乗り越える計画づくりに取り組みました。

いいだ未来デザイン 2028 における「飯田の強み」と「飯田らしさ」

- 変化の激しい時代を生き抜く力の源泉 「学び」
- グローバル時代に魅力を放つ価値の創造 「交流」
- 新たな課題を解決し時代を切り拓く 「共感」

【シンポジウム・未来デザイン会議における今後に向けた意見】
 コロナ禍だからこそ、「飯田の強み」や「飯田らしさ」がより活かせる時代になる。
 ただし、その効果を最大限に高めるために、より特徴を磨くこと、際立たせることが必要。

パラダイム転換により期待される要素 (提言抜粋)

- 急速なデジタル化が進む中で、テレワークの普及、二拠点移住などの新しい選択肢や、価値観の変化で都市一極集中からの地方分散が進む。
- 感染予防のバーチャル体験や交流が増加するが、だからこそ飯田の自然や文化などのリアルな魅力の価値が一層高まる。
- 貧困や健康に対する人と人とのつながり (関係性) による新しい効果が期待されている。飯田のコミュニティが移住・定住の選択肢になる時代になってくる。
- コロナ禍のモノ不足経験で「小さな自給」という意識の高まりが生まれるなど、意識の変化に応じられる土壌がある飯田は選ばれた地域になる。
- リアルが充実した飯田だからこそ、早急にバーチャル(分散型社会)に対応すれば、リアルとバーチャルのハイブリットな実践で、持続可能な地域づくりができる。

未来ビジョン・人口ビジョン (12 年間) は継続

4 年間の基本的方向等は見直しを行う。

リニアがもたらす大交流時代に「暮らし豊かなまち」をデザインする ~合言葉はムトス 誰もが主役 飯田未来舞台~

- 【目指すまちの姿】
- 私らしいくらしのスタイルを楽しむまち
 - 人と人がながり、安全安心に暮らせるまち
 - 健やかにいきいきと暮らせるまち
 - 学びあいにより生きる力と文化を育むまち
 - 地域の応援で子育ての幸せが実感できるまち
 - 人と自然が共生する環境のまち
 - 持続的で力強く自立するまち
 - 地域の誇りと愛着で 20 地区の個性が輝くまち
- 【人口展望】 定住人口 (2028 年)96,000 人 (2045 年)91,000 人 交流人口 (2028 年)156,000 人 (2045 年)182,000 人

◆中期4年間(2021~2024 年度)の基本目標 (11/10 未来デザイン会議検討案)

- 稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる
- (A案) 飯田市とのつながりを築き、飯田市への人の流れをつくる(B案) ②関係人口を増やし、飯田市への人の流れをつくる
- “結いの心”に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む
- 豊かな「学びの土壌」を活かした「学習と交流」を進め、飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育む
- 文化・スポーツを通じて人と地域の輝き・うるおいをつくる
- 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 「市民総健康」と「生涯現役」をめざす
- 共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる
- 20 地区が輝く生き活きとした地域づくりを地域主体で進める
- 個性を尊重し、多様な価値観を認め合い、活動の場を広げる
- 地球環境への配慮が当たり前のまちづくり
- 災害や社会リスクに備え、社会基盤を強化し、地域防災力の向上を図る
- リニア時代を支える都市基盤を整備する

◇基本目標に基づき、今後庁内で決定していくこと ⇒ 次回の未来デザイン会議の議題
 基本目標の実現に向けた目標値「進捗状況確認指標」「重要業績評価指標(KPI)」など設定。
 目標の実現にむけた1年単位の年度戦略(次年度予算編成も並行)の策定。